

# 野菜に千代田化成 効き目は“ズバッ！グーン！！”

今回ご出演いただいた鈴木さんは、埼玉県三芳町の「三富新田(右の写真)」と呼ばれている地域にお住まいで、お茶、野菜を合わせて6ヘクタール栽培されています。ご自宅の敷地内にすべての畑があり、また、お茶も野菜もほとんどすべて地元で販売されています。作物に対する千代田化成の効果や、栽培に対する思いをお伺いしました。



## ■野菜の栽培品目は20以上

鈴木さんのお宅は元々野菜を栽培されていて、お爺様の代からお茶栽培を始めたそうです。今では野菜とお茶をそれぞれ3ヘクタール栽培されています。「春から夏にかけてはブロッコリーや、キュウリ、トマト、ナス、オクラなどの果菜類を中心に栽培しています。栽培している品目は20品目以上になり、一年を通して野菜の収穫がない月はありません。」  
「一番茶と二番茶の製造時期だけは、野菜の収穫量を減らすようにしています。それでも寝る間を惜しんで作業することもあります。スーパの売場を空けてしまおうわけにはいかなので、そこは努力を積み重ねていくしかないと思っています。」



7月に咲く花。何の花か、わかりますか？

## ■千代田化成の効果は『ズバッ！グーン！！』

鈴木さんは20年ほど前からお茶に千代田化成を使い始め、その後、野菜にも使うようになったそうです。  
「お茶で千代田化成を使って非常に溶けやすく、とても効き目がありそうだなというところで、野菜にも使うようになりました。今では特にキュウリとナスに使っています。」  
「畝間に手や施肥機を使って施肥しますが、葉や果実のツヤが良くなり、定期的に施肥することで樹勢が維持されます。だいたい10日から2週間おきに、10アール当たり20キロほど施肥しています。」  
「うちはすべての畑に井戸水の配管が設置されているため、どの畑でもすぐに散水することができます。千代田化成を水に溶かして使う方法があると聞いていますが、施肥後すぐに散水できるため、うちでは水に溶かして使ったことはありません。」  
千代田化成の効き方については、お仲間たちとこんな言い方をされているそうです。  
「千代田化成の効き方は『ズバッ！グーン！！』という感じです。施肥してすぐに『ズバッ！』と効いて、作物が『グーン！！』と伸びる。まさにそんな感じですよ。」

## ■日々、自分で畑に入り畑の調子を見極める

現在、緩効性肥料などの省力型肥料を望まれる生産者が増えていますが、鈴木さんは緩効性肥料をほとんど使っていないそうです。  
「一部サトイモに使っていますが、そのほかの作物には使っていません。なるべく畑に自分が入ることで畑の調子を確認する。手間を惜しまず、作物の状態を見ながら栽培するように心がけています。」  
将来的にはどのようなことを考えておられますか？  
「現状を維持しつつ、枝豆、それからネギの出荷量を大幅に増やしていきたいと考えています。」  
6ヘクタールの畑を日々管理し、1日たりとも売場の棚を空けない。しかもさらに生産量を増やしていく。  
「言うは易く行うは難し」。でも鈴木さんは当たり前のようを実現されると思います。  
鈴木さん、ありがとうございます。

## ■『地産地消』に取り組む

鈴木さんは現在、収穫された野菜を近隣のスーパーやJAの直売所で販売されています。

「最近流行の『地場コーナー』があり、生産者の顔が見える販売方法というところで販売させていただいています。昔は農協の共販出荷をしていましたが、20年くらい前から直売スタイルに取り組み始めました。」



これはゴボウ。ここには何でもあります

「今では地場コーナーで野菜と一緒に、お茶も販売させていただいているところもあります。野菜を栽培した同じ生産者が作ったお茶だということで、購入される方もいると聞いています。お茶と野菜を同時に栽培することは苦勞も多いのですが、こんなメリットもあります。」  
「この地域は昔にくらべたら人口もスーパも増えました。そういう変化の中でスーパさんと協力して、消費者に新鮮なものが速く届くスタイルの販売方法に取り組んでいます。『地産地消』という考え方です。自分専用の棚がある以上、一日も棚を空けるわけにはいきません。」

